

## 研修会報告

「オバマ大統領通訳が語る 異文化コミュニケーションの極意 ~ 英語と日本語の違い」

5月21日(金)

講演:ランプキン 朋子 氏 (Tomoko Sawada Lumpkin)

会議通訳

研修担当理事:小暮 美怜

5月21日(金)、ワシントン日本商工会は、会議通訳のランプキン朋子氏をお招きして、ウェビナー“オバマ大統領通訳が語る異文化コミュニケーションの極意 ~ 英語と日本語の違い”を開催し、多くの方にご参加いただきました。

ランプキン氏は大阪外国語大学、ハワイ大学大学院をご卒業後、日英の会議通訳者として現在まで第一線でご活躍されています。今までに通訳された会議は、日米首脳会談(2015)、オバマ元大統領と上皇上皇后両陛下のご歓談(2014)、オバマ元大統領・クリントン元国務長官訪日、APEC 横浜会議、G20 会議、ケリー元国務長官・岸田元外相会談、国連関連会議など多岐に渡ります。

当日の講演では、日英通訳の方法や、欧州と米国における通訳の重要性に対する認識の差異、ポストコロナによるデジタル化・AIの活用が進む今後の通訳の可能性、そして私たちワシントン日本商工会会員に向けたアドバイスまで、多岐に渡る内容をお話いただきました。そのなかでも、自分が持っている「Frame of Reference(無意識で自動的に想起される、概念を思い浮かべるときのベースとなるもの)」を経験や勉強などを通して広げ、豊かにしていくことで、他者への想像力や理解が深まり、異文化コミュニケーションもうまく行えるようになる、というお話が強く印象に残りました。また、商工会会員に対しては、「直接議会や政府の政策立案者と有機的な関係を築き、現場でしか分からない生の情報と自分の頭で考えた意見を日本に発信し、日本を刺激する起爆剤となってほしい」という力強いメッセージをいただきました。

その後、参加者から多くの質問があり、通訳する側、される側それぞれの立場になったときの注意点や、丁寧な言葉遣いが過度に求められる昨今の日本の風潮に対する警鐘、日米リーダーのコミュニケーションスタイルから学べる事など、実体験を交えながら一つ一つの質問に丁寧にご回答いただきました。ワシントンで日米間のコミュニケーションに奮闘する会員に刺さる、大変示唆に富むディスカッションができたと思います。



Misato Kogure



Tomoko Lumpkin



☆ Ken Mizoguchi